

『事業仕分けからみえるミュージアムの未来』

事業仕分けにより、ミュージアムが無駄や削減の対象にされるかもしれないという悲観論が聞こえてきます。ところで、事業仕分けは、ミュージアムにとって、戦うべき敵なのでしょうか？今回は、構想日本の西田陽光氏をゲストに迎え、事業仕分けがめざそうとしている理念や基本的な考え方の理解を深めようと思います。そのうえで、地域の小さな博物館が展開してきた住民密着の活動を点検してみます。交わらないであろうと思われてきたこの2つの作業を実施することで、ミュージアムの何が強みとなり、未来志向で何ができるかを考えてみようと思います。

- 日時： 2010年3月6日(土) 13:30～16:40
- 会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町3番1号)センター棟 514室
- 主催： 日本ミュージアム・マネジメント学会(応用部門研究部会)
- 共催： 筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻
- 定員： 50名
- 参加費： 無料

【プログラム】

13:00～	受付開始
13:30～13:40	主催者挨拶
13:40～14:30	基調講演「事業仕分けでミュージアムの必要性を検証する」 構想日本 パブリシティ担当ディレクター 西田 陽光
14:30～14:40	(休憩)
14:40～15:00	事例報告Ⅰ「地域密着への未来ミュージアムへの取り組み」 利尻町立博物館 学芸課長 西谷 栄治
15:00～15:20	事例報告Ⅱ「まかべひな祭りのミュージアム・マネジメント」 桜川市職員 元真壁民族資料館職員 鈴木 謙一
15:20～15:40	事例報告Ⅲ「地域で生かす文化遺産」 筑波大学大学院人間総合科学研究科 研究員 加藤つむぎ
15:40～16:30	パネルディスカッション
16:30～16:40	総括
16:40	閉会

■お申し込み・お問い合わせ先

日本ミュージアム・マネジメント学会事務局
〒136-0082 東京都江東区新木場2-2-1
電話・ファックス 03-3521-2932
メール kanri@jmma-net.jp